

日時: 2023 年 7 月 21 日(金) 15:00-15:50

会場: 横浜市青少年育成センター 第二研修室

◆ 主 催: 防災塾・だるま 総括運営: 鷲山 司会: 山田(美)

記録: 田中(晃)

◆ 談義の会参加者: 32 名(会場 25 名、ZOOM: 7 名)

(敬称略)

話題: 「地域の備えは 自助と共助の見守り合いで」

～「おとなり場システム」の仕組みづくり～

講師 松島 宗 氏 中丸小学校地域防災拠点運営委員会事務局長 現防災塾・だるま理事

高松自助サロンリーダー挨拶

横浜市神奈川区で自治会町内会活動はじめいろいろな活動をしている松島さんに講演をお願いしました。阪神淡路大震災にも遭遇されており、隣近所の結びつきを日常活動で組織化し、在宅避難の充実による被災者や要支援者対応など実践的な取り組みです。



松島 宗 氏 講演 「地域の備えは 自助と共助の見守り合いで」

■ 講演要旨

今年は関東大震災から 100 年! 災害は待ったなし!

大震災発生時に「みんな」で助け合うことは大切です。

1995 年の阪神・淡路大震災の救助の主体と救出者数を見

ると 77.4%が近所の住民によって救出されています。

隣人同士や向こう 3 軒両隣などの目の届く範囲の結びつ

きが大切です。普段から準備して「みんな」で助け合う

仕組みを考えてみました。それが「おとなり場システム」です。

事前準備として「在宅避難」を想定して自助、共助を強化する。「おとなり場」班単位で「安否確認訓練」を行うこととしています。初期消火、被災者の救出救助、避難誘導を要援護者(高齢者・幼児・障害者)に行える仕組みを作りました。



■ 自主防災組織の立ち上げ

・横浜市神奈川区大丸町内会(500 世帯)の会長となり、地域の活性化に取り組んだところ、その 1 番目として防災に力を入れることにしました。さっそく町内会内に自主防災組織を平成 25 年に立ちあげ、発災時の体制とそれぞれの役割づくりに取り組みました。

・神戸の地震では、近隣で助け合ったと聞くが、地震が起こると思っていませんでしたし、たまたま地縁関係があったと考えざるを得ません。発災直後は公共機関や関係者は自分のことで精一杯で頼ることができません。その緊急時に生き延びるには、助け合いが大事であり、「隣人同士や向こう 3 軒両隣など目の届く範囲の結びつきや近隣共同体が機能」する新しい仕組みを作ることとしました。

・町内会の公園を中心に、新たな仕組みづくりとして「おとなり場」を作り、災害時に高齢者や幼児などの要援護者はブロックごとの一時避難場所に避難、安全を確認できた在宅避難者で助け合うことにしました。



■ 「おとなり場」アクションプラン

- ・ おとなり場ごとのご近所体制を町内会内で構築する構想を作成しました。

テーマ	検討内容
ブロックの編成 替え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害用に道路を挟んで対面している 10 軒を 1 ブロックに編成 ・ 防災委員はリーダー等 3 名 ・ 町内の通りに名前を付けて目標を分かり易くする(～通り)
おとなり場の確 保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震度 5 以上でブロック毎に集まり、安否情報や被害情報を共有 ・ 自治会防災拠点へも伝える。避難が必要な方々を避難させる
おとなり場カー ドの作成と保管	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災委員が配布、おとなり場（一時避難場所）の記入 ・ 必要な情報、在宅の状況、70 歳以上・幼児、要支援者、その他 ・ おとなり場グッズ袋を配布、中にカードを保管する
安否確認とステ ッカー掲示・	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手助けが必要な人、避難者をいち早く把握し、みんなで助け合う ・ 「助けが必要です」「在宅者無事です」のステッカーで表示する ・ 防災拠点本部にトランシーバーで伝達する
「大丸♥」に登 録しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員の「技」や「できること」を「一般分野」「専門・資格分野」「その他」にわけて登録していただく ・ 登録キャンペーンを随時行う
拠点に掲示板	「情報掲示板」「緊急広報版」「消息掲示板」3 つを設置する

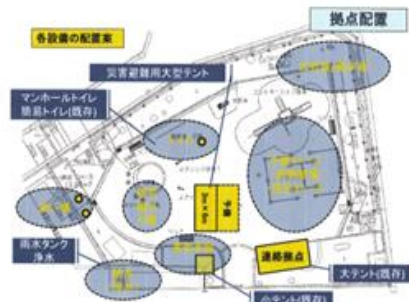
●大丸減災プロジェクトを開始

自治会内でアクションプランの承認を得て、一つずつ具体化してきました。

内容	主な実施事項
自治会で承認されました	<ul style="list-style-type: none"> 自治会総会で防災対策・関連予算が承認されました ハード面は自治会で、ソフト面は町内会員の協力で実施します
おとなり場を、町内に27班作りしました	<ul style="list-style-type: none"> 自分の班と向こう3軒両隣＝おとなり場を会員間で確認した 自分が助かり、おとなりさんを助ける意識を高めています 災害時にはお隣同士で安否を確認し合い、おとなり場に一時的に避難する手順を確認した
おとなり場システムを構築しました	<ul style="list-style-type: none"> 会員におとなり場の意味と目的を理解していただきます。 おとなり場を町内会役員が決めます おとなり場カードの記入方法を説明する。安否確認システムの取り扱い規程を作成した 班単位で班長と副班長2名（原則年当番）を選定した 安否確認と状況をトランシーバーで片倉公園防災拠点に連絡。 おとなり場勉強会を担当者がおとなり場班単位に案内、場所はおとなり場班単位。運営マニュアルを作成した トランシーバー不感帯対応 班長・副班長の委嘱式を実施した
おとなり場訓練	<ul style="list-style-type: none"> おとなり場訓練の案内を出し、訓練を実施しました 安否確認数を確定しました ・時間内処理を目指します



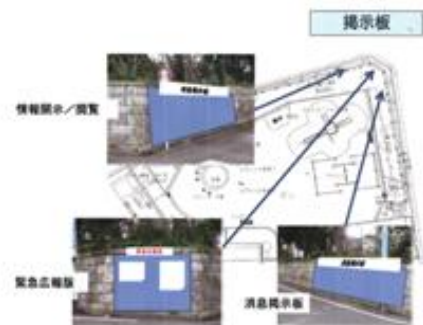
27班のブロック図



拠点での配置図

おとなり場カード：調査票

大丸♥に登録：調査票



掲示板3種

■ コロナ禍で大災害が起きたら「在宅避難」をお勧めします

(1) 在宅避難の必要性：災害時の在宅避難を想定して自助を強化する

・地域防災拠点は、自宅が倒壊・半壊したり火災で焼け出されたり自宅では生活できない方たちのために、市内の一部でも震度が5強以上が出た場合、安全を確認して開設されます。でも、拠点の収容人数はわずか70名、生活環境は良好ではなく、備蓄品も限られています。障害者等にとっては継続生活できず退場する人が多い。

・このため、安全な家があれば、在宅での避難をすすめます。自宅以外に、親類、友人、ホテルに分散避難してほしい。

・拠点の運営委員は運営委員が行うが、被災者は運営主体でもあります。



(2) 建物自体の耐震化が一番

・お金がない人もおり、まず、基本的な事をもう一度きちんと理解し合うことにしています。自助・共助・公助で対応は成り立つが、まず自助をしっかりすれば、共助や公助を活かすことになる。

・自分の家をまず安全な場所にする。建物自体の耐震化の理解と耐震性能の向上が第一。

・地震による負傷者の30~50%は家具類の転倒、落下が原因。家具の配置の工夫、寝る場所や避難通路には家具を置かない。家具類の安全対策を行いましょう。

・窓ガラスが破損するので、枕元に避難用具を用意しておこう。



(3) 在宅避難するためには

・震度5強以上はトイレは使わない、簡易トイレを使い燃えるごみとして廃棄する。

・ライフラインの停止に備え自前で準備する。停電中の照明の準備、電化製品のプラグを抜き、ブレーカーを落とす。ガスは震度5以上やガス漏れで自動的に止まる。ガスコンロ等を用意すること。

・備蓄品についても、非常用持ち出し袋に入れておきたいもの、自宅に備えておきたいもの、眼鏡などの必需品、冷蔵庫などの食料備蓄など考えていただくよう訴えています。

(4) 会員との相互理解

・在宅避難をメインに、基本的な事をもう一度きちんと理解し合い、備えるようにしています。

・町内会への説明ですので、分かり易く話すようにしています。実際の状況はできないことも多いが、交流で繋がりを作っていくことに重点を置いています。

(5) 今年目標

・交流会をお年寄りから子供まで含めて行うことを考えています。おとなり場活動が見守りにも活用できることを期待したい。

■質疑応答

Q 阪神淡路大震災の経験が生きているようだが。

A 単身赴任で現地におり、10階建の5階がつぶれたり、お年寄りや子どもの被害が多かったりした。

Q 自治会として、どんな経過から始めたのか。

A 自治会の課題では、防災対応が一番との報告があった。震災時の避難のイメージがなく、毎月開かれる町内会で揉んだところ、初期消火や寝たきりの高齢者の避難を検討してくれとの意見がでた。このため青年部も含め検討チームを作った。

Q 共助のために道路を挟んだブロックを作ったことは参考になる。また、道路に名前を付けたのも目標が分かる。

A 子供のころに愛称の道路名を使った記憶がある。ブロックの場所が分かり易くなった。

Q おとなり場には救命ボックスが必要ではないか

A 救命ボックスの話題を町内会の会議で報告したところ、今ある道具を活用することになった。

Q ブルーシートを掲示板に使用、面白いアイデアだが、雨天時はどうするか

A 透明のビニール板を張ることにしている。

Q 簡易デジタル無線を採用したようだが、広範囲利用で大災害時は使えない。トランシーバーの基地局を高く設定すれば、エリア内の不感帯はなくなる。

A 自治会用のデジタル無線に使っており、アイデアを利用しトランシーバーと共用する。

■◎高松リーダーからの総括

松島さんが現地で体験したことをベースにおとなり場が出来上がっており、それぞれの地域でも具体化するよう取り組んでください。

* 自助サロンの評価：今回の発表から、「自助」として次が評価される。

- ・自治会活動の一環として自主防災活動を取り入れている。
- ・近隣の市民が集まり助けあえる仕組み「おとなり場」を新たに作った。
- ・在宅避難で自助力を向上させている。
- ・地域の活動資源の発掘と相互の助け合いに活用する。
- ・発災後の1時間が勝負、生命の維持、初期消火、要援護者対応などが実施しやすい。

以 上

●次回（第193回）案内（会場参加+ZOOM参加 ハイブリット形式）

- ・日時：2023年10月20日（金）9:30~12:00
- ・話題：横浜震災遺構まち歩き
- ・講師：相原延光氏
- ・定例会と防災サロンの実施